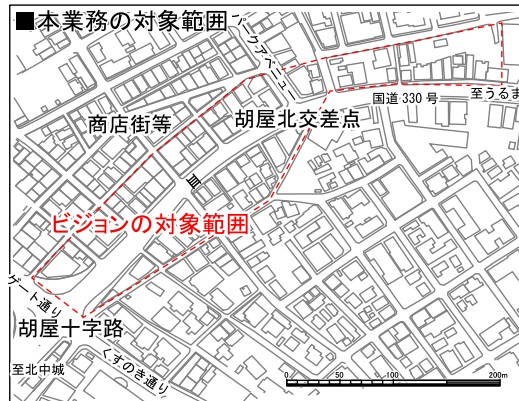


令和3年度

国道330号胡屋地区沿道まちづくり交通・回遊機能検討業務

1. 業務の目的

- 沖縄市では、平成21年度より国道330号胡屋十字路～コザ十字路区間沿線において、国道の拡幅に伴う沿道まちづくりについて検討をはじめ、「胡屋十字路～胡屋北交差点」地区（以下「本地区」という）においては、平成25年度より検討を進めてきました。
- 本地区については、沿道まちづくりの将来像や基本方針、官民それぞれが担うべき役割を示す推進体制や共有したい意識・行動を含めた基本姿勢、さらに段階的な沿道の実現イメージをまとめた沿道まちづくりビジョン（案）（以下、「ビジョン」という）、を作成しています。
- ビジョンの基本方針においては、「【交通・回遊】KOZAからモビリティを変えていく」としており、マイカーから多様な移動手段へのシフトを促し、コザの回遊性向上を位置づけています。
- 一方、沖縄県においては、「沖縄県公共交通活性化推進協議会」を設置し、「那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画」において、県内路線バスの課題へ対応すべく、利用しやすく効率的で確実な走行性、シームレスな乗り継ぎを図り、バス網の再構築を推進するため、基幹バスシステムを導入し、沖縄市側の交通結節点整備に取り組む必要があると示されています。
- また、国においては、交通混雑の緩和や物流の円滑化のため、バス・タクシー・トラック等の事業者専用の停留施設を道路付属物として新たに位置づける道路法改正や、交通拠点の機能強化に関する計画ガイドラインを作成しました。
- 本業務ではビジョンに基づき、国や県、本市等における現状及び課題等を踏まえ、本地区に望ましい交通・回遊機能構想の検討を目的としました。



2. これまでの経緯

年度	該当地区	取組内容
H21	胡屋～コザ間	土地利用計画構想(案)の策定
H22	胡屋～コザ間	整備方針及びエリア別整備計画の策定
H23	コザ地区	壁画及び広場の実施設計
	胡屋地区	中央パークアベニュー沿線まちづくり(案)の検討
H24	胡屋地区	まちづくり基本方針(案)の検討／胡屋北交差点周辺の交通形態の検討
H25	胡屋地区	まちづくり基本方針の策定／国道330沿線地区整備の方向性を検討
H26	胡屋地区	地権者意向の把握・情報提供
H27	胡屋地区	沿道まちづくりのコンセプト及び段階的な実現シナリオの設定／都市計画変更に向けた関係機関協議
H28	胡屋地区	沿道まちづくりのビジョン及び枠組み検討／主要事業の手法、沿道まちづくり組織検討
H29	胡屋地区	沿道まちづくりビジョン(案)の実現に向け、想定される課題への対応方策／沿道地域の将来像、民間の取組みを誘導する支援方策及びルール of 検討
H30	胡屋地区	沿道まちづくり(中期)基本計画、民間の取組みを誘導する支援方策及びルール of 検討／まちづくり会社の設立に向けた検討
R01	胡屋地区	沿道まちづくりに係る拠点施設の検討、屋台村事業に向けた市場調査と建築物の仕様検討／まちづくり会社発起人会支援
R02	胡屋地区	商業地の沿道として好ましい用途を誘導するための、地区計画策定に向けた検討
R03	胡屋地区	現状・課題の整理、整備方針・イメージの検討、結節点の位置や他機能等の検討

3. 沖縄市の現状・課題を踏まえた交通機能の検討

- ・ 沖縄市のまちづくりや交通等について現状と課題を把握し、沖縄市の移動・交通特性を踏まえ、市に必要と考えられる交通結節点の整備方針、機能イメージの検討を行いました。

○整備方針及び交通結節点の機能イメージ(案)

【方針①】 胡屋地区商店街における多様な都市活動を促す拠点の構築

- ・ 沖縄市の商業の中心である胡屋地区（一番街商店街地区、中央パークアベニュー地区、コザゲート通り地区）において多様な都市活動を促す拠点、地域住民や来訪者が、心地よく集えたり佇んだりできる拠点の構築を図ります。

○広場・交流機能の整備

- ・ 交流・憩いの場の創出
- ・ 地域イベントでの公共空間活用
- ・ 商店街の歩行者専用空間との連携

【方針②】 沖縄本島中南部の中心地区として交通機能を高める拠点の構築

- ・ 本島中南部の一体性を高める社会インフラとして位置づけられている基幹バスシステムと連携し、沖縄本島全体が抱える交通課題への改善につながるよう、交通拠点機能の構築を図ります。

○交通結節点に関する機能整備

- ・ 基幹バスシステムとの連携
- ・ 観光バス、高速バスとの連携

【方針③】 地域へのアクセス性、回遊性を高める持続可能な交通環境の実現

- ・ 施設・地域とのアクセス性、地域内の回遊性を高めるため、様々な交通手段との乗り継ぎ機能の強化を図り、誰もが使いやすい持続可能な交通環境の実現を図ります。

○多様なモビリティとの乗り継ぎ機能整備

- ・ 循環バス、シャトルバス、シェアサイクル等との連携

○公共交通利便性向上に向けた待合機能整備

- ・ バス停上屋、待合所等の整備
- ・ デジタルサイネージの整備

○回遊性の向上に向けた道路空間整備

- ・ 休憩施設（ベンチ等）の整備
- ・ 生活道路への通過交通対策

○バリアフリー化の促進

【方針④】 沖縄市の顔となる魅力ある空間の創出

- ・ 南北の商業景観軸と東西の交流景観軸が交わる沖縄市の顔となる地域として、中心市街地の活性化につながる空間の創出を図ります。

○沖縄市独自の景観整備

- ・ 国際色豊かな街並みの形成
- ・ 地域シンボリックな空間の形成

○まちづくりと一体となった道路空間整備

- ・ 国道330号、パークアベニュー通りと連携した空間整備

【方針⑤】 地域の安全安心を支える防災機能の強化

- ・ 緊急時において中心市街地の安全安心な拠点となる機能の構築を図ります。また、災害時における被害発生情報や交通機関の運行情報等の情報機能の構築を図ります。

○防災拠点としての機能整備

- ・ 被災状況や交通機能の運行情報等の情報発信
- ・ 避難場所としての待合所・広場の活用

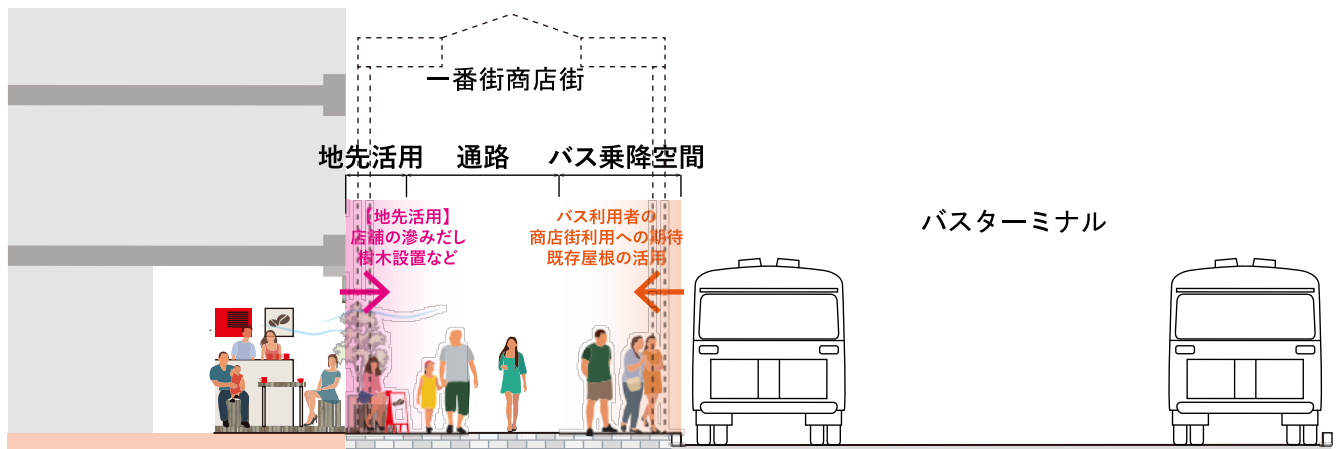
- 交通結節点整備による、沖縄市胡屋を中心とした都市間交流整備イメージ及び、回遊イメージを整理しました。

[illegible]

4. 交通結節点内の配置案の検討

- 交通機能の配置にあたっては、まちづくり観点から、商店街とのつながりを見据え、乗降場は商店街に面した位置を想定し、交通結節点の機能配置イメージ(案)を整理しました。

○乗降場の配置(案)



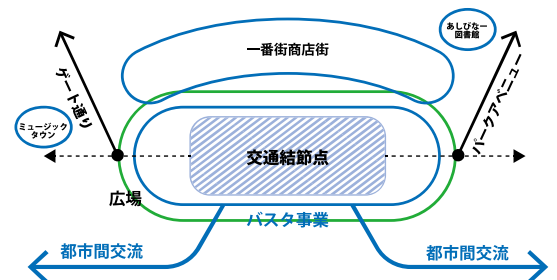
5. 交通結節点により想定される波及効果

- 交通結節点の整備により想定される波及効果として、結節点整備によるまちづくりへの波及効果のイメージ図と結節点整備による波及効果(ロジックモデル)を整理しました。

①結節点整備によるまちづくりへの波及効果のイメージ図

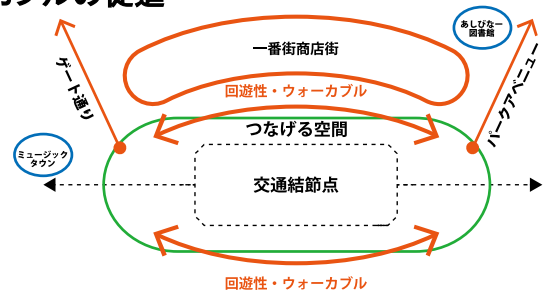
STEP1:「点」 都市間交流拠点(交通結節点)の整備

交通結節点整備により、商店街に都市間交流拠点(広場や防災拠点等も含む)が生まれる



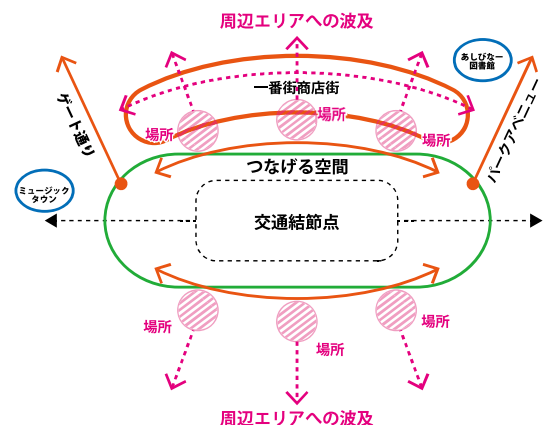
STEP2:「線」 広場(交流拠点)と商店街の回遊性向上・ウォーカブルの促進

広場が「バスでの来訪者と商店街をつなげる空間」として活用されることで、人と人の交流が生まれ、拠点間の移動が発生し、商店街エリアの回遊性向上・ウォーカブルの促進が期待される。

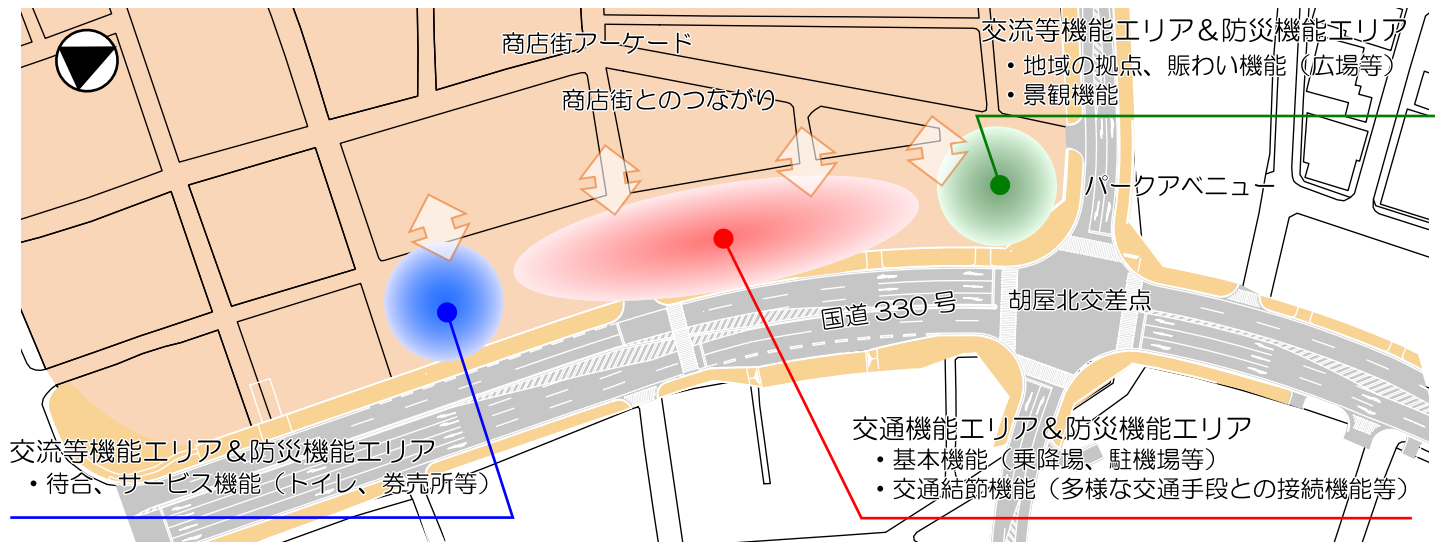


STEP3:「面」 魅力的な場所づくり、周辺エリアへの波及

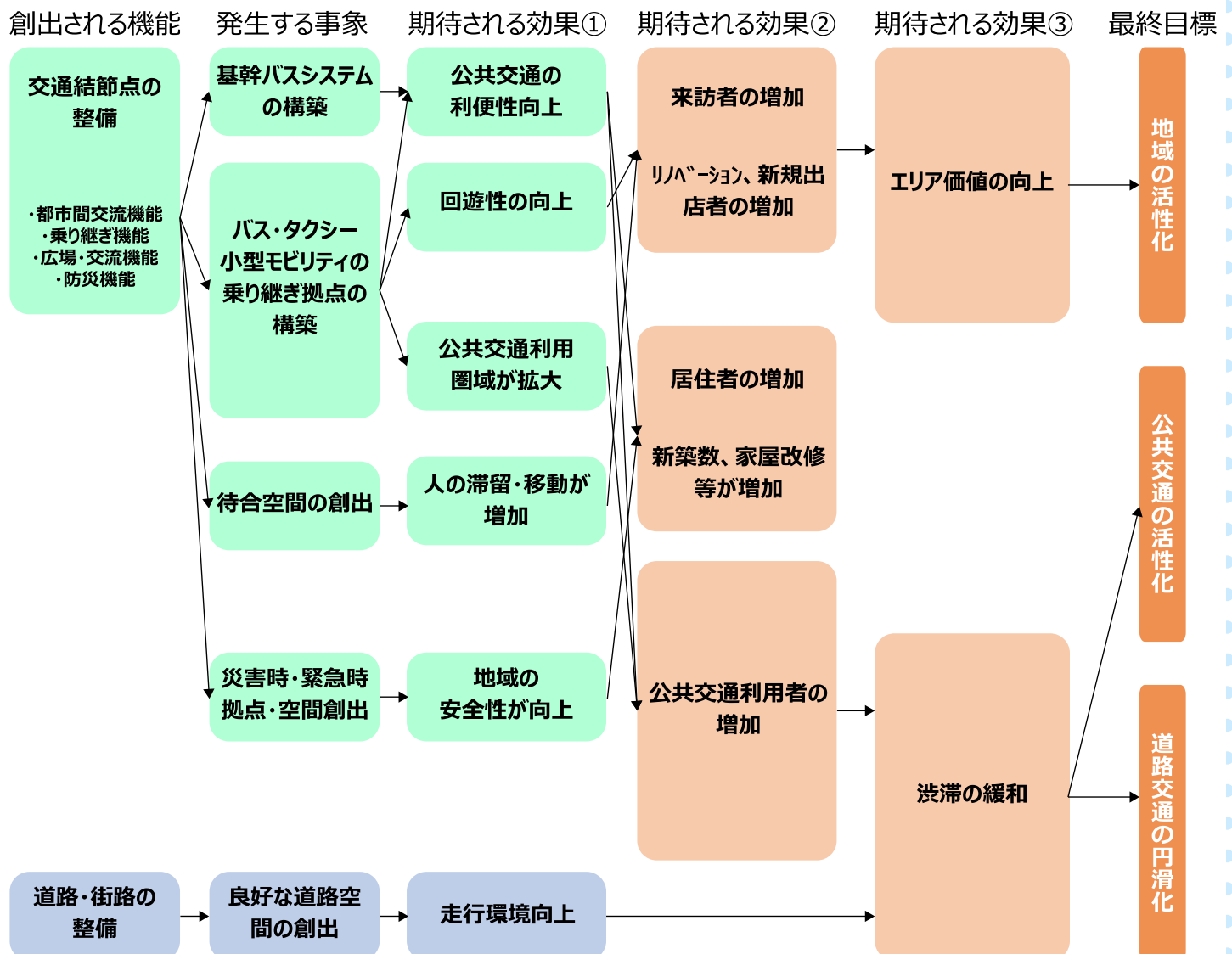
広場の通り沿いでは、商店街の活動が先に活性化され、通り沿いに魅力的な場所が生み出されていく。・その魅力的な場所を中心に様々な移動や滞留、交流がさらに生まれ、周辺居住エリアへの波及やつながりが生み出されていく。



○交通結節点の機能配置イメージ（案）



②結節点整備による波及効果（ロジックモデル）



6. 地域との意見交換

- ・本検討では、胡屋十字路周辺地区まちづくり検討ワーキング(全3回開催)にて、意見を頂きながら検討を進めました。

○令和3年度 検討ワーキング開催の様子(※第1回はオンライン開催)

■第2回ワーキング



■第3回ワーキング



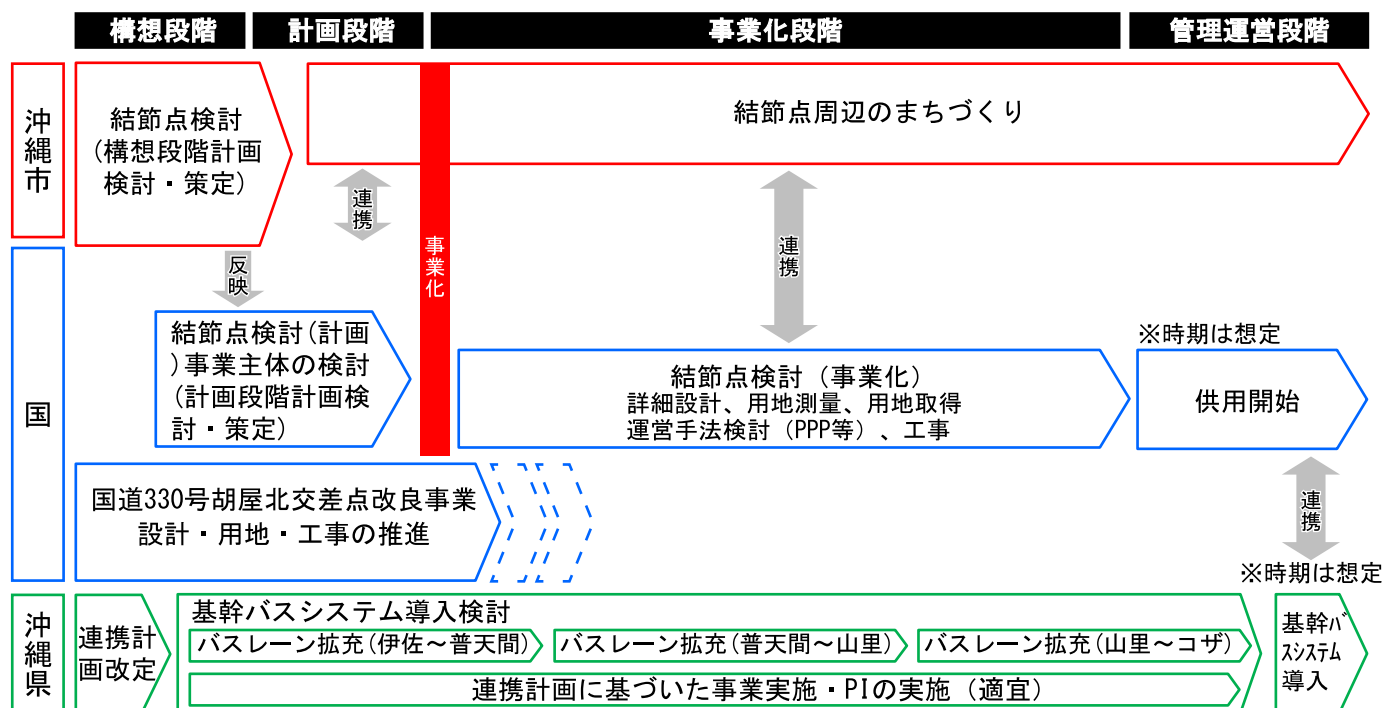
7. 今後の課題

- ・今後の課題を踏まえ、検討を進めていきます。

○取り組むべき課題

- ①道路事業のスケジュールの把握・共有
- ②道路事業のスケジュールを踏まえた、段階的なまちづくりの実施
- ③地域や関係機関等との連携
- ④明確な役割分担・検討体制の構築

○令和4年度以降のスケジュール(案) ※スケジュールは案です。今後変更の可能性が有ります。



8. 胡屋地区の将来イメージ

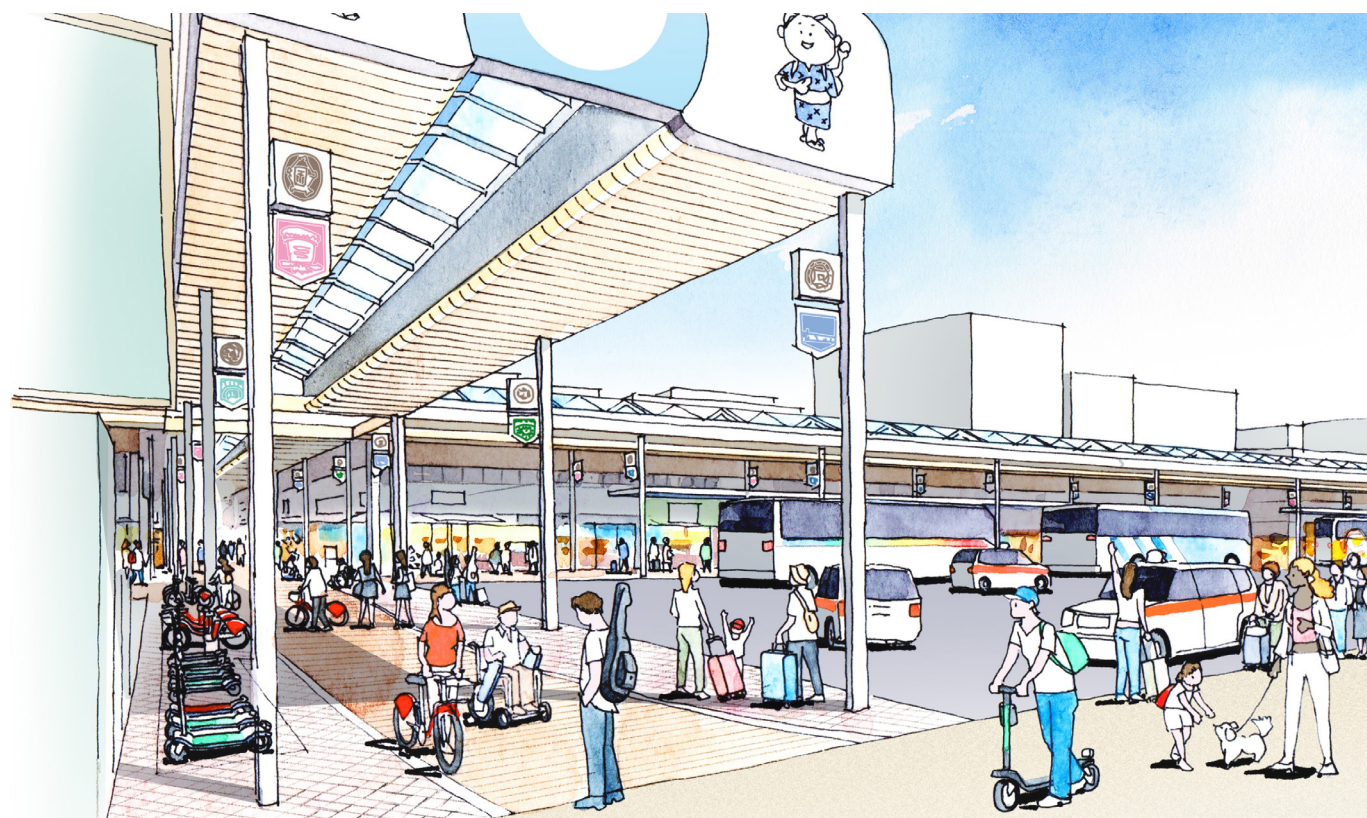
※下記のイメージは案であり、決定したものではありません。

- ・ 交通結節点の検討にあたり、イメージパースの作成を行いました。

■商店街側からの視点



■国道 330 号歩道側からの視点



沿道まちづくりビジョン(案) ※平成28年度取組

まちの将来像

- 共有したいまちの将来像 -

古き良き KOZA の魅力を継承しながら
変化に柔軟に対応していく沿道まちづくり

KOZA PRIDE STAGE

基本方針

- 将来像の実現に向けて -

経済活力 KOZA からコンテンツを生み出す

- ① 既存ストックをうまく活かしながら、“働きたい” “訪れたい”と人が集う、新たなまちの魅力・雇用を創出する。
- ② 「社会が求めている事業者」が集う舞台を目指し「若者」や「よそ者」もチャレンジしやすい環境を整える。



コザ文化 KOZAらしさを継承する

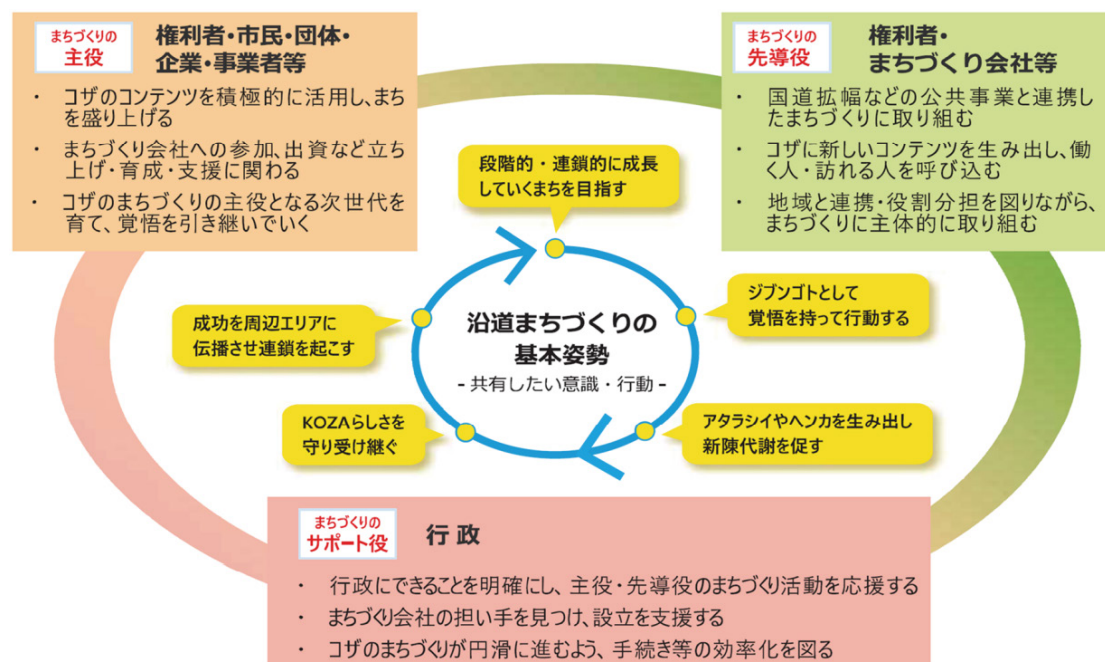
- ① 新しいものや異なるものを柔軟に受け入れてきたウェルカム精神と、その中で育まれた独自の音楽・食文化を継承する。
- ② コザらしさ香る国際色豊かな空間を継承する。

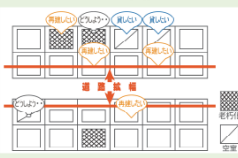
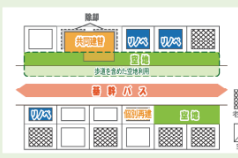
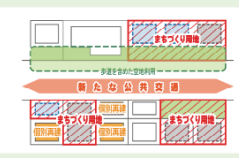


交通回遊 KOZA からモビリティを変えていく

- ① マイカーから多様な移動手段へのモーダルシフトを促し、コザの回遊性を向上させる。
- ② 駐車場空間の効率的なマネジメントによる既存駐車場の有効活用を図る。





	短期(計画段階)	中期(国道330号拡幅・基幹バス開通後)	長期(新たな公共交通が実現した場合など)
方向性	官民連携による沿道まちづくり計画作成	変化に柔軟に対応しながらKOZAの魅力継承(既存ストックの有効活用)	公共交通と連携した持続可能な中心市街地の形成
土地・建物等	・ 権利者意向の詳細把握 ・ 土地利用計画・整備手法の検討 ・ 沿道まちづくりの組織化 	・ 国道330号の拡幅・基幹バスの運行にあわせ、将来変化を見据えた建替え、建物リノベーション、空地活用の実施 	・ 新たな公共交通と連携した駅前拠点形成の誘導 
ルール等	・ 中期の変化を見据えたルール作成 【現在の様子】 	・ 既存ストックの有効活用等に合わせた暫定的、柔軟なルールなど 用途の制限 1階部分は店舗やカフェテラスにする等による賑わいの創出 空間資源の有効活用 継続的な賑わいを創出するため、簡易店舗等による有効活用 空間でのコンテンツの提供 リノベーションなど、賑わいを創出するための有効活用 空間の居心地 ベンチやテント等を設置し、憩いの空間の創出に努める 敷地規模 コナテナや移動販売の簡易店舗等の暫定利用は許可する 	・ エリア価値の向上による建て替え更新に合わせた理想的なルール 形態意匠 陸屋根を基本とし、まちなみの連続性に考慮 緑化 賑わいや四季を演出する花木や青木の活用 用途の制限 1階部分は店舗やカフェテラスにする等賑わいの創出 配置規模 賑わい空間を創出するため、壁面後退の工夫 屋外広告物 英語(アルファベット)表記、鮮やかな色彩、洗練されたデザイン その他 英語表記や絵文字の併用など誰にでもわかりやすい案内表示 空間資源 イベント空間、アート空間としての活用、簡易店舗の設置、夜間のライトアップなど、積極的なコザの魅力創出 

【問い合わせ先】

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当 TEL: 098-989-9135